

十二の月のおくりもの

演奏者のご紹介



©Naoya Yamaguchi

下野 竜也

1969年鹿児島生まれ。2000年東京国際音楽コンクール＜指揮＞優勝と齋藤秀雄賞受賞、2001年ブザンソン国際指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴び、以降、国際的な活動を展開。国内の主要オーケストラに定期的に招かれる一方、ミラノ・ヴェルディ響、ストラスブルグフィル、ボルドー管、ロワール管、ウィーン室内管など各国のオーケストラに次々と客演を重ね、2009年はローマ・サンタ・チェチーリア管、チェコフィルハーモニーの定期演奏会に招かれ好評を博した。2010年3月にはシュツットガルト放送響へのデビューを飾り、10月はカンヌPACA管に再客演。12月には、サイトウ・キネンオーケストラを指揮して、ニューヨーク、カーネギホールに登場。続く2011年4月には南西ドイツフィルにデビューと近年国際舞台での活躍が目覚ましい。2006年より読売日本交響楽団の初代正指揮者に迎えられ、ドボルザークとヒンデミットを軸としつつ新作初演まで取り組む意欲的な姿勢とプログラム構成には特に定評がある。霧島国際音楽祭、サイトウ・キネン・フェスティバル松本をはじめ、数多くの音楽祭にも参加。近年はオペラの分野でも新国立劇場、日生劇場、二期会をはじめとした注目の公演で指揮を務めている。2007年からは上野学園大学音楽学部教授として後進の指導にも情熱を注いでいる。2011年1月、広島ウインドオーケストラ音楽監督に就任。録音も数多く、最新盤として、チェコフィルとの演奏を収めた「R. シュトラウス：英雄の生涯」のCDがエイベックス・クラシックスから、また広島ウインドオーケストラの音楽監督就任公演を収めたCDがブレーン株式会社よりリリースされている。

大阪フィルハーモニー交響楽団

1947年朝比奈隆を中心に「関西交響楽団」という名称で生まれ、1950年社団法人化、1960年に改組、現在の名称になった。創立から2001年までの55年間朝比奈隆が指揮者を務め、大阪フィルは個性と魅力溢れるオーケストラとして親しまれてきた。2003年4月から2012年3月まで大植英次が音楽監督を務め、2012年4月に桂冠指揮者に就任。これまでに、遠山信二、外山雄三、若杉弘、秋山和慶、手塚幸紀、大友直人等、名指揮者達と専属契約を結んだほか、内外の一流音楽家と共演。「定期演奏会」はザ・シンフォニーホールで、年10回、毎回2公演開催している。また大阪以外の全国各地の文化振興にも貢献しており、数回にわたるヨーロッパ、カナダ、アメリカ、韓国、台湾での演奏旅行では各地で絶賛を博した。

<http://www.osaka-phil.com/>



©飯島隆

藤原 真理



©Atsuya Iwashita

大阪生まれ。1959年に桐朋学園「子供のための音楽教室」に入学し、以後15年間、日本を代表する指揮者、チェリストそして教育家である齋藤秀雄に師事する。1971年に第40回日本音楽コンクール・チェロ部門第1位および大賞を受賞。1975年には東京

にてデビュー・リサイタルを行い、芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。1976年、世界の巨匠であるフルニエ、ロストロポーヴィチ両氏に師事。1978年、第6回チャイコフスキー国際コンクールにおいて第2位を受賞。以後、ソロリサイタルをはじめベートーヴェン・チェロソナタ全曲演奏会、バッハ無伴奏チェロ組曲全曲演奏会、カントロフ、メンデルスゾーン、ルヴィエら名手との室内楽演奏会など、名実ともに日本を代表するチェリストとして国内外で活躍。CDはDENONレーベルほかで多数リリース。無伴奏作品、ソナタ集、協奏曲、室内楽、久石譲作品収録の大人気シリーズ「風」3部作など多岐にわたり、高い評価を受けている。最新CDとして「ベートーヴェン『街の歌』〜クラリネット・チェロ・ピアノで奏でる5つの詩〜」（オクタヴィア・レコード/OVCX-00042）をリリース。

藤原真理オフィシャルサイト
<http://www.mari-fujiwara.com/>

竹田 恵子



2004年までオペラシニアターこんにやく座に所属。代表など務める。現在顧問。故・宮川睦子氏が創出した「こんにやく体操」にも長年取り組み、現在文学座研修所講師。表現の土台づくりの場としての同体操の普及に努めている。退座後始めた「竹田恵子オペラひとりっ切り」シリーズは現在7作を数える（キャバレー「バダン・バダンー私とあたし」はDVD化）。2012年12月に新たに宮澤賢治の「水仙月の四日」と古典落語「芝浜」を高橋悠治作曲で予定。CDには「賢治、たたずむ、歩く、飛行する」「ほくは12歳」「私が歌う理由・赤電車」（レコード芸術誌特選）「竹田恵子プレヒト・ソングを歌う」（レコード芸術誌特選、年間レコードアカデミー賞ノミネート）「林光作品集／喜寿の林で」（レコード芸術誌特選）等がある。なお、好評だった「にごりえ」も、2013年1月に新録音にてCD発売予定。

通崎 睦美



©平野愛

1967年京都市生まれ。5才よりマリンバを始める。1992年京都市立芸術大学大学院修了。1991年のデビューコンサート以降、自身でコンサートをプロデュースし、毎回新しい試みに取り組んできた。常に作曲や編曲の委嘱を活発に行い、独自のレパートリーを開拓。ピアノ、ヴァイオリン、アコーディオン、箏、三絃を始めとする様々な楽器やダンスとのデュオ、マリンバ・トリオ、室内楽やオーケストラとの共演など、多様な形態で演奏活動を行っている。また、木琴の巨匠平岡養一氏の木琴と500曲以上にのぼる楽譜やマレットを譲り受け、以後、彼の軌跡をたどりながら、木琴の新たな可能性を探る活動も始める。2007年9月には東京での初のリサイタル「平岡養一誕生100年記念 通崎睦美リサイタル」を開催、NHK-BS「クラシック倶楽部」で放送された。一方、アンティーク着物の収集家としても知られ、コレクションやライフスタイルが様々なメディアで紹介される。2007年12月にはテレビ朝日「徹子の部屋」に出演、そのコレクションと、木琴の演奏が話題となった。CD、著書も多数。

CD、著書も多数。
<http://tsuzaki.j-spirit.com/blog/>